

スレート屋根板踏み抜きによる死亡・重篤災害発生事例

水戸労働基準監督署

	発生日等	災害発生状況
1	平成25年8月 建築工事業 60代・男性	工場建屋のスレート屋根板補修工事において、スレートでふかれた屋根上を歩いているとき、スレートを踏み抜き、5 m下に墜落し死亡した。
2	平成25年11月 建築工事業 50代・男性	工場建屋の雨樋を清掃するため、スレートでふかれた屋根上を歩いているとき、スレートを踏み抜き、8 m下に墜落した。休業6箇月。
3	平成26年4月 その他の建設業 30代・男性	牛舎の屋根に使用されているスレートの一部を撤去するため、スレートでふかれた屋根上を歩いているとき、スレートを踏み抜き、約5 m下に墜落した。休業6箇月。
4	平成26年5月 機械設備設置工事業 20代・男性	自動車小売店舗において、塗装用空調ダクトを設置する工事に従事していた板金作業員が、スレートでふかれた屋根上を歩いているとき、スレートを踏み抜き、9 m下に墜落した。7日後に死亡。
5	平成26年5月 建築工事業 20代・男性	スレート製の自社工場屋根葺替作業において、屋根上の作業員から電動工具を持って来るように指示を受けた被災者は、作業員の近くの足場に頼まれた電動工具を置いた後、スレート屋根上を歩いて事務所に戻っていたとき、スレートを踏み抜き、高さ約7 m下のコンクリート床面に墜落した。

スレート踏み抜きの急所

スレートでふかれた屋根の上は、スレート板に透過性がないことから、地上部分が見えず、高所作業箇所であるとの認識が低下してしまう。

屋根部分の部材や桟木は、経年劣化が進み強度がなくなっている。

比較的短時間作業になること及び臨時的な作業となることが多いため、安全対策を怠る傾向がある。

墜落災害が発生すると、建屋の中の第三者も二次災害に巻き込まれる可能性がある。

スレート上は薄い氷の上と同じです。万全の対策をお願いします。

問い合わせ等

水戸労働基準監督署 安全衛生課

水戸市宮町1-8-31 ☎029-226-2237

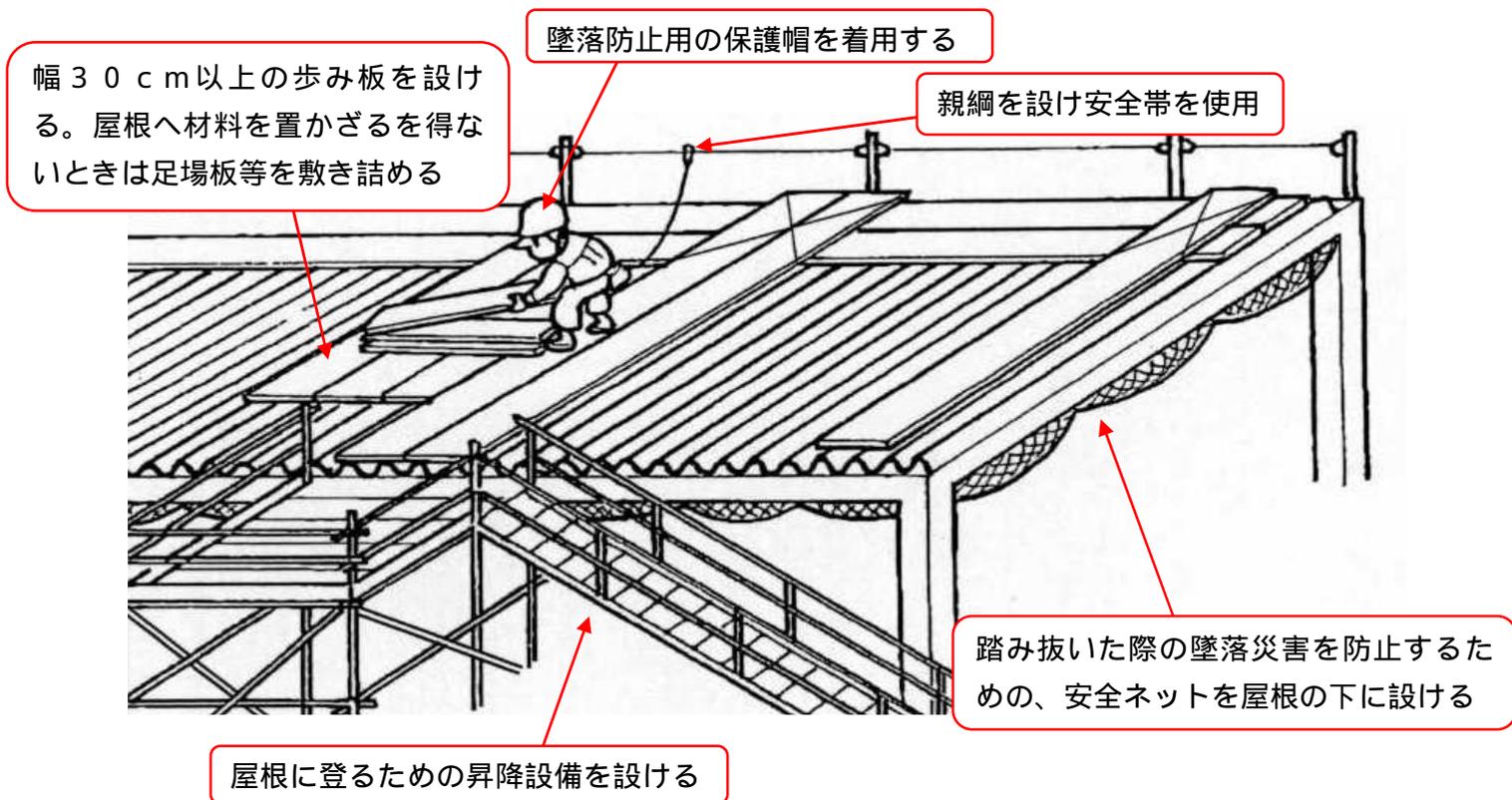
スレート踏み抜き隊落災害「10ヶ月で5件、うち死亡2件発生」

～スレート踏み抜き隊落災害撲滅のための特別要請～

水戸労働基準監督署管内では、昨年（平成25年）からスレートを踏み抜くことによる墜落災害が多発しており、今後も予断を許さない状況にあります。当署においては、スレートを踏み抜くことによる墜落災害を未然に防止するため、あらゆる機会をとらえ、全力を挙げて取り組むことといたします。

皆様の事業場におかれましても、スレートでふかれた屋根上で作業する労働者又は工業者に対し、安全確保の再確認等を徹底され、絶対にスレートを踏み抜くことによる墜落災害を発生させないという姿勢で臨むようお願いいたします。

～スレート踏み抜き防止対策～



労働安全衛生規則第524条（スレート等の屋根上の危険の防止）

事業者は、スレート、木毛板等の材料でふかれた屋根の上で作業を行う場合において、労働者に危険を及ぼすおそれがあるときは、幅30cm以上の歩み板を設け、防網を張る等踏み抜きによる労働者の危険を防止するための措置を講じなければならない。